

令和6年度 岡山県立西備支援学校 学校評価書

I 自己評価結果

1 評価方法

学校評価を行うにあたり、次のように行った。

- ① 学校評価アンケート（教職員対象）別表1参照
- ② 学校評価アンケート（保護者対象）別表2参照

2 評価結果

学校評価アンケートの回収率は保護者 84%、教職員 100%であった。

評価点は、「当てはまる」を4点、「やや当てはまる」を3点、「あまり当てはまらない」を2点「当てはまらない」を1点として計算し、合計点数を回答数で割っている。全員が「当てはまる」と回答した場合、評価点が4点となる。別表3、4、5参照

II 分析・改善方策等

- I 項目別評価 〈別表3〉教職員アンケートの結果と昨年度との比較
 〈別表4〉保護者アンケートの結果と昨年度との比較

(I) 項目別評価

本年度は、保護者アンケート、教職員アンケート共に質問項目の内容について変更はない。教職員アンケートについては、学校経営計画とのつながりについては昨年度と同様に明確にした。

【保護者】

① 評価点が高い項目

保護者の評価点が高かった項目（評価点3.7以上）は、「教育活動の工夫・改善に関するもの」「個別の教育支援計画の作成に関するもの」「個に応じた目標設定に基づく指導・支援に関するもの」「学習の記録に関するもの」「プライバシー保護と人権への配慮に関するもの」「病気やけがへの対応に関するもの」「変災時に備えた取組に関するもの」「教育環境の整備と事故防止に関するもの」「給食の安全に関するもの」であった。いずれも昨年度同様に保護者の学校への期待も大きいと思われる。また今年度高評価となった「ホームページや Facebook 等を通じたの情報発信に関するもの」は、全校メール配信アプリ『ラクメ』の活用等も影響したと思われる。

② 評価点が低い項目

保護者の評価点が低い項目（3.5以下）は、「社会生活を送る上で必要な情報の提供に関するもの」「地域の教育力の積極的な活用に関するもの」「関係諸機関との連携に関するもの」であった。昨年度も評価の低かった項目である。

③ 令和5年度との比較

〔評価点が上がった項目〕

令和5年度の結果と比較し上昇した項目は、「安全な給食の提供に関するもの」、「卒業後に必要

な力を伸ばすための学習活動に関するもの」「情報発信に関するもの」の3項目であった。「安全な給食の提供に関するもの」については、食物アレルギーや提供食品の形状等、丁寧に対応しながら、季節を感じる食材やバラエティー豊かな献立が評価されたと考えられる。「卒業後に必要な力を伸ばすための学習活動に関するもの」については、各発達段階に応じて段階的に計画実施している校外学習や、今年度コミュニティスクールを推進していく中で、校外での実践的学習活動や体験的活動の実施ができたことで評価点が上昇したと考えられる。「学校の情報発信に関するもの」は、各種「たより」やホームページ、Facebookの更新を全校メール配信アプリ『ラクメ』を利用して周知を図ったことで閲覧回数が増え、評価点が上昇したと考えられる。

「地域の教育力の活用」については、地域資源の中での学習活動や外部専門家による学習等実施はしているもののできていない結果となった。各部署での取組を系統化して意識を高めるとともに、情報発信の方法等を工夫する必要がある。地域学校協働活動推進委員会を中心に学校支援ボランティアを活性化させ、具体的な活動について情報発信を続けていく必要がある。

〔評価点が下がった項目〕

令和5年度と令和6年度の評価を比較し評価点が下がった「社会生活を送る上で必要な情報の提供に関するもの」「関係諸機関との連携に関するもの」の項目については再度見直し、学部・学年懇談や進路行事、PTA研修等で卒業後の進路や生活に関する情報を得ることができるよう計画的に実施していく必要がある。また各研修や行事等に参加できない方への伝達方法も工夫していく必要がある。「学習に記録に関するもの」については、昨年度よりも評価点が下がってはいるが、点数は高い。毎年保護者の意識が高く、必要に応じて個別の指導計画の内容についても懇談等で丁寧に補足説明する必要がある。

【教職員】

① 評価点が高い項目

教職員の評価の高い項目（評価点3.7以上）は、「個別的教育支援計画の作成に関するもの」「児童生徒のプライバシーや人権に関するもの」「病気やけがへの適切な対応に関するもの」「変災時に備えた取組に関するもの」「教育環境の安全とアクシデントの未然防止に関するもの」「給食の提供や摂食指導に関するもの」であった。引き続き研修等を実施することで、日々意識を高めて取り組んでいく。

② 評価点が低い項目

教職員の評価点が低い項目（3.5以下）は、「社会生活を送る上での情報提供に関するもの」「地域の教育力の積極的な活用に関するもの」「16-（教職員全体の）センター的機能」「18-学部間体験授業や合同学習の実施」「19-技能検定への取組」「20-タブレットの有効活用、主体性（やりたい、わかった、できた）を引き出す授業づくり」「21-空き時間の活用、支え合っの業務遂行に関するもの」であった。このうち「16」～「21」については、教職員のみを対象としている項目である。昨年度より評価が上昇しているが、今後も取組を継続していくことが必要である。

③ 令和5年度との比較

令和5年度の結果と比較し、21項目中14項目で評価点が上がった。教育支援計画や個別の指導計画等の活用充実と系統的な指導評価に向けた取組、コミュニティスクールの活性化などが

影響していると思われる。

(2) 保護者・教職員の評価点の比較 〈別表5〉教職員と保護者のアンケート結果の比較

保護者と教職員の評価点の比較では、「教育活動の工夫改善」「個別の指導計画」「個に応じた指導支援」「学習の記録」「変災時の備えた取組」「安全な給食の提供」「学校の情報発信」「地域の教育力の活用」の項目で保護者の評価点が教職員の評価点を上回っている。保護者の評価点が教職員の評価点より低かった項目は「プライバシーや人権に関するもの」「病気やけがへの適切な対応」「社会生活上必要な情報の提供」「関係諸機関との連携に関するもの」であった。配付物の誤配付等のトラブルがあり、情報管理について保護者の方からの御意見や御指摘をいただいた。共通理解を図った上で、校内で検討し、具体的な対応について改善を図ることができた。同時に引き続きコンプライアンス研修を実施していく。進路説明会や福祉制度説明会等、情報発信が可能なものについては、関係諸機関との連携の視点も取り入れて保護者に伝えていく必要がある。学校は日々関係諸機関と連携しての多くの業務を行っているが、関係諸機関との連携は個別対応となることが多い。また、情報発信の内容も限られるため、保護者に活動が見えにくいと考えられる。その他各項目の評価点は保護者と教職員でほぼ同じ傾向を示している。

2 課題となる項目の改善に向けて

保護者の評価点が低い項目（3. 5以下）について、「あてはまる」という評価の割合を令和5年度と令和6年度で比較すると、「社会生活を送る上で必要な情報の提供に関するもの」「地域の教育力の積極的な活用に関するもの」「関係諸機関との連携に関するもの」の項目が低下していた。「社会生活を送る上で必要な情報の提供に関するもの」等の児童生徒の進路に関する内容については、昨年度見直し、「福祉制度説明会」「進路懇談会」への小学部・中学部の保護者の参加が増加傾向にある。更に参加を促すと共に、参加できない保護者についての研修動画の配信等具体策を検討していく。「プライバシーや人権に関するもの」について、保護者等からの貴重な御意見を生かし、アクシデント等の未然防止策を目指し、全教職員で共有した。また様々な事例の対応についても研修を行い、意識を高めていきたい。

保護者アンケートの自由記述において「将来の見通しへの不安に関すること」、「保護者対応に関すること」についても御意見をいただいた。個別の教育支援計画をもとに児童生徒の将来の姿をイメージしながら保護者の皆様と合意形成をして進めていけるよう全教職員で再確認する。またトラブル等が発生した場合はチームで迅速に対応すると共に、未然防止を強化していきたい。

教職員の評価点が低い項目（3. 5以下）について、「社会生活を送る上での情報提供に関するもの」「地域の教育力の積極的な活用に関するもの」「関係諸機関との連携に関するもの」「(教職員全体の) センターの機能」「学部間体験授業や合同学習の実施」「技能検定への取組」「タブレットの有効活用、主体性（やりたい、わかった、できた）を引き出す授業づくり」「空き時間の活用、支え合っの業務遂行に関するもの」については、「Ⅱ学校経営目標に関する教職員の評価」において詳しく述べる。

3 その他

引き続き、本校のコミュニティースクールを柱とする教育活動をホームページや Facebook を利

用して積極的に情報発信することはもとより、その他の SNS を利用して、地域への発信も充実させていくことで、本来のコミュニティースクールが目指す「地域と共にある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を実現できればと考えている。

全校メール配信アプリ『ラクメ』の利用が始まり、様々な情報発信やアンケート調査が可能になってきた。引き続き校務の効率化も同時に進めていく必要がある。

Ⅲ 学校経営目標重点目標に関する教職員の評価

5つの学校経営目標ごとに定めた小項目について、別表に評価を示す。

1 キャリア教育の視点に立った指導・支援（「夢育」の推進）

学習評価に関しては、95%の教職員が「生徒の力を適切に評価して『学習の記録』に記載している。」「卒業後の姿を意識し、卒業後に必要な力を伸ばすための指導を行っている。」と回答している。

今年度、教務会を中心に一貫性・系統性のある教育活動を推進するため、学習指導要領及び岡山県特別支援教育指導内容表等に基づいて年間指導計画の整理と指導計画の一部改善を行った。実用性を高め、計画的に教育活動を進めることで、より適切な指導支援と評価につなげる。

小学部検定や清掃検定への取組については計画的に行うことができた。今年度は、岡山県特別支援学校技能検定（清掃）で、3名の合格者があった。また、事業所見学やアフターケアへの参加を通して、卒業後を見通した指導への教職員の意識が高まった。

合同学習では、授業や行事での役割分担を明確にすることで、教職員が部門・学部を超えて児童生徒に関わる姿が多く見られた。児童生徒同士もお互いを認め合ったり、支え合ったりしながら、自然に声をかけあう場面が見られた。

今年度は、それぞれの取組が活動計画の中に定着した年度であったといえる。

2 授業力・専門性の向上

情報教育係を中心に、教職員のニーズに合ったICTミニスキル研修を計画的に実施したことで、「タブレットや情報機器を適切に有効に活用した授業づくりに関するもの」の評価が昨年度より高くなった。

公開授業の実施や他学部の授業参観、大学教授による指導助言により、授業改善への意識が高まった。学びの確認会を定期的に行い、継続した指導につながっている。OJT研修も自分のニーズに近い内容で集まったメンバーで行ったことにより、それぞれのグループで計画的に取り組むことができた。研修内容の精選や研修の持ち方の工夫により、さらに主体的な研修となるように改善していきたい。

夏季休業中には、大学から講師を招き、本校教職員とともに地域小中学校、高等学校教職員や行政機関職員等が参加した研修会「公開講座」を開催した。地域の学校、行政・福祉関係者の参加者は94名であった。参加者の96%が、実施後のアンケートに「明日からの実践や子どもと関わる上で参考になる」と回答した。地域の特別支援教育のセンター的機能を十分果たせたと言える。

3 安心安全な学校づくり

危機管理マニュアルについては今年度も随時見直しと改善を行った。特に南海トラフ巨大地震に備えての避難訓練の内容は、能登半島沖地震等の実際の動きを参考にして、命を守ることを最優先した動きに改善して実施した。また、コミュニティースクール「防災安全プロジェクト」が中心となり、福祉避難所としての役割について再確認した。笠岡市・井原市との協定を見直すと共に、学区内の浅口市、里

庄町、矢掛町の危機管理担当者、福祉担当者が集まって「福祉避難所運営研修」を実施することができた。学校運営協議会委員、PTA役員等も参加し、災害時の動きをシミュレーションすることができたことで、とても有意義な研修となった。また、避難訓練には地域の消防団に参加していただき、消防車を間近で見るすることができた。全国的に地震に対する緊張感が高まっている中、教職員の意識も高まっている。

人権教育の取組として、児童生徒全員に学校生活アンケートを実施した。児童生徒と相談の時間を確実に確保できることはとても有効である。児童生徒からも相談しやすい雰囲気作りもできている。SNS等を介してのトラブルにも早期に対応し、学習につなげることができた。

スクールカウンセラーの活用については、全校メール配信アプリを活用して家庭や教職員に利用を呼び掛けた。昨年度は相談者が固定化していたが、今年度は保護者を中心に複数の方が活用できた。活用数が更に増えるよう、対象者の幅を広げて発信していく。またカウンセラーが校内を巡回する中で児童生徒に言葉をかけることで親近感が高まったことも、児童生徒にとって効果的であった。

4 地域連携とセンター的機能の充実

居住地校交流については、知的障害部門小学部で交流希望が86%、居住地校交流希望が68% 中学部で、交流希望が72%、居住地校交流希望が60%、肢体不自由部門小・中学部で交流希望100%、居住地校交流希望が40%であった。多くの児童生徒が交流籍を居住地の小中学校に置いており、居住地校交流にも積極的に取り組んでいる。前年度までの積み上げもあって、お互いがこの交流を楽しみにしており、内容も充実してきている。今年度の成果を来年度にもつなげていきたい。

高等部についても、笠岡市戦没者慰霊祭（折鶴製作、代表生徒の参加等）、笠岡イルミネーションへの参加、自立支援協議会主催の障害者週間啓発活動等、多くの地域活動に参加した。また、進路懇談会や事業所見学、福祉制度説明会を地域の協力を得ながら実施した。作業学習見学会では地域の企業、事業所の参加者が増え、本校の教育活動や障害者雇用への理解促進につながっている。また、従来から行っている校外での販売や実習を充実すると共に、新しい形での地域型実習を1年生で実施するなど、地域資源を生かした学習を通して、地域の方とのふれあいも深まった。

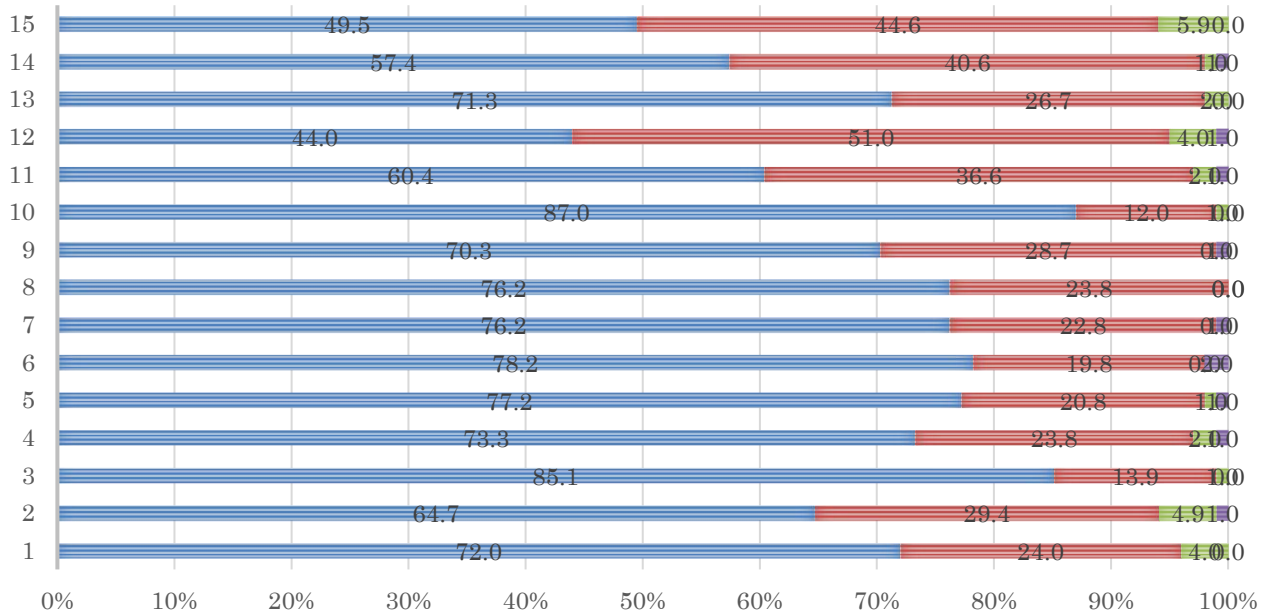
今年度は地域学校協働活動推進委員会を中心に、地域の学校支援ボランティアの活用が活発になってきた。運動会やPTA夏祭り、せいび祭では、特に多くのボランティアに参加していただいた。PTA事業委員会を中心に進めてきた「クリーン大作戦」を、本年度は小中高合同で実施した。保護者だけではなく、老人会や町おこし隊の方もボランティアとして参加していただいた。また、地域の専門家やスポーツ選手による出前授業では、しめ縄作り、餅つき、フットサルや空手など、いろいろな体験学習を進めることができた。引き続き計画的に実施していくことで、地域とのつながりを大切にしながらコミュニティースクールを進めていきたい。

5 働き方改革

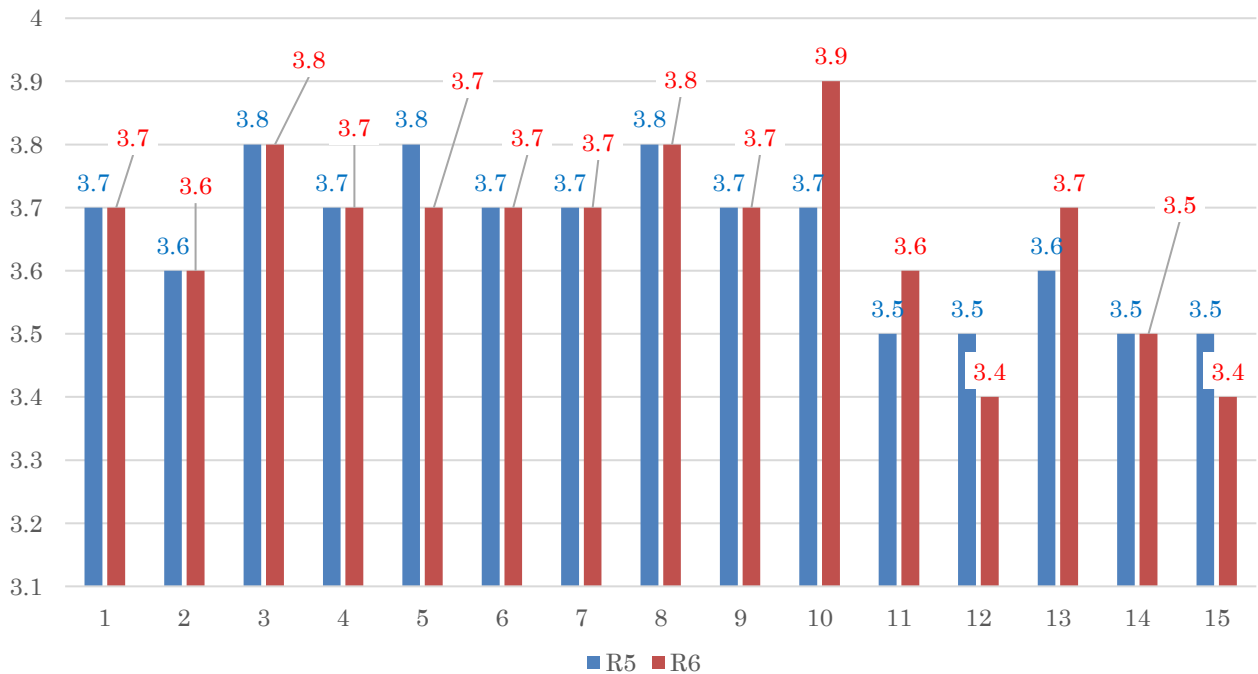
出退勤時刻の徹底や行事や会議の精選により、「空き時間を活用し、支え合って業務遂行をしている。」と答えた教職員が昨年78%から83%に高まった。時間外業務時間の平均は昨年度より減少している。多忙な時期でも時間を意識して業務を進めることがスタンダードになりつつある。休暇や出張などで教職員数が足りない時には互いに声を掛け合いフォローし合うことができ、学年の枠を超えて協力することも多くなった。今後も教務主任を中心に行事をスリム化し、計画的・効率的な業務の推進につなげていく。引き続き、互いに支え合うことのできる同僚性の高い職場を目指していく。

保護者アンケート結果R6

■当てはまる ■やや当てはまる ■あまり当てはまらない ■当てはまらない

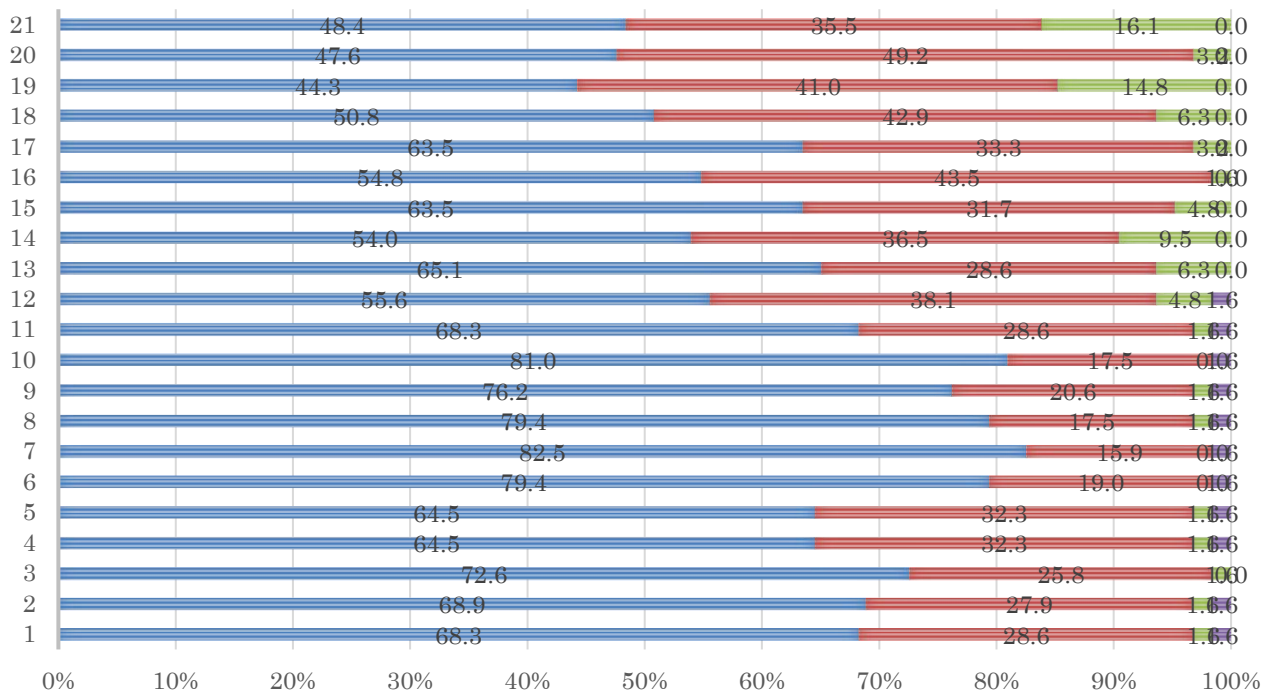


保護者R5・R6比較

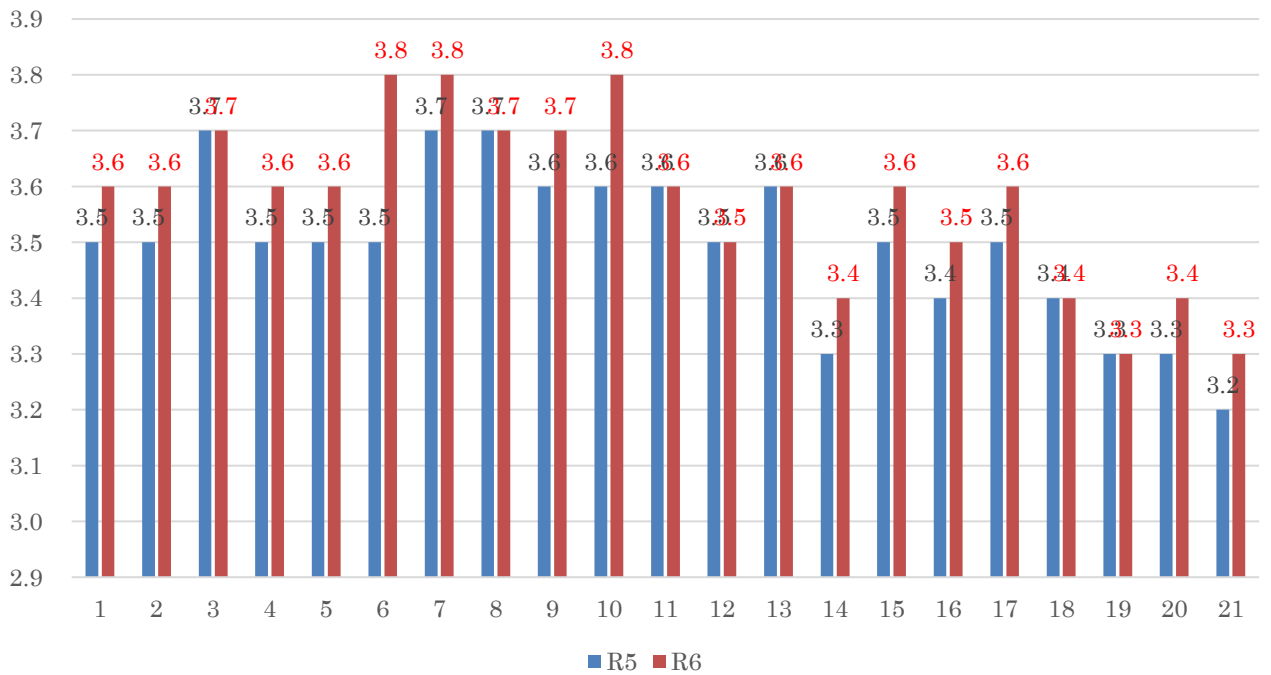


教職員アンケート結果R6

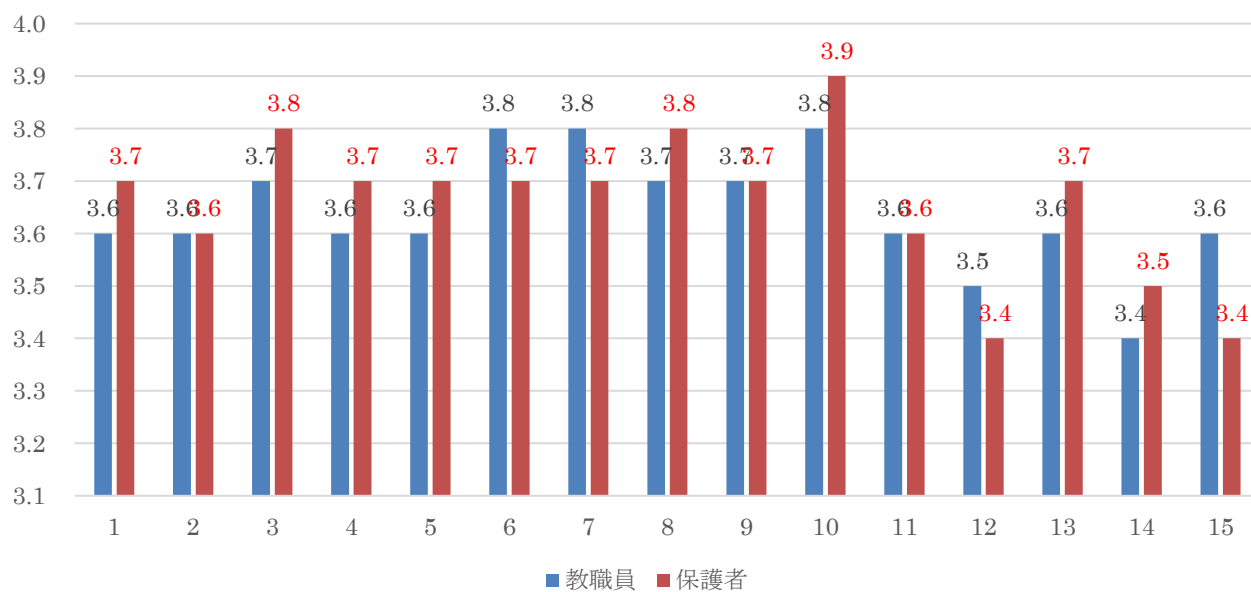
■当てはまる ■やや当てはまる ■あまり当てはまらない ■当てはまらない



教職員R5・R6比較



教職員・保護者比較R6



令和6年度 学校評価アンケート（保護者用）				
岡山県立西備支援学校				
※このアンケートは、学校の教育活動をより充実したものとするために、学校から保護者の皆様 お願いするものです。 それぞれの内容について、a～dのうち、該当する欄に○印を書いてください。 どうしても判断できない（分からない）内容は、○印を記入しなくても結構です。				
		当 て は ま る	やや 当 て は ま る	あ ま り 当 て は ま ら ない
	評 価 内 容	a	b	c
1	学校は、お子さんが進んで学習できるよう、教育活動の工夫・改善を行っている。			
2	お子さんに関する情報について、前の学年や学部・学校からの引継が行われている。			
3	お子さんの個別の教育支援計画は、十分な説明のもと、学校と保護者で話し合って作成されている。			
4	お子さんは、個に応じた目標設定に基づいた指導・支援を受けながら学習できている。			
5	「学習の記録」には、お子さんの成長が適切に評価され、わかりやすく書かれている。			
6	学校は、お子さんのプライバシーの保護や人権に配慮して、指導や支援を行っている。			
7	学校は、お子さんの校内での安全について、病気やけがへの適切な対応や予防の取組などを行っている。			
8	学校は、変災時（自然災害や火災など）に備えた取組を行い、様々な訓練を行っている。			
9	学校は、教育環境を安全に整え、事故防止に努めている。			
10	学校は、お子さんの健康や衛生環境に留意し、安全に給食を提供している。			
11	学校は、お子さんの将来の姿を念頭に、卒業後に必要な力を伸ばすための学習活動を取り入れている。			
12	学校は、お子さんが社会生活を送る上で必要な情報の提供を行っている。			
13	学校は、通信やホームページ、フェイスブックなどを通じて、学校の情報を保護者や地域へ発信している。			
14	学校は、地域の教育力（駅・公民館・商店などの施設、近隣の学校、その他団体・個人）を積極的に活用して教育活動を行っている。			
15	学校は、医療・福祉・行政・労働などの関係機関と連携して支援を行っている。			
cまたはdと回答された質問があれば、よろしければその理由をお書きください。				

令和6年度 学校評価アンケート（教職員用）

岡山県立西備支援学校

〔所属〕 A小 A中 A高 B小 B中 B高

氏名 ()

a 当てはまる b やや当てはまる c あまり当てはまらない d 当てはまらない

経営目標		評 価 内 容	a	b	c	d
1-③	1	私たちは、学校教育目標に基づいて、児童生徒がもてる力を発揮しながら進んで学習できるように、教育活動の工夫・改善を行っている。				
1-①	2	私たちは、前の学年や学部・学校より児童生徒の情報について引き継ぎを行っている。				
1-①	3	私たちは、保護者との十分な合意形成のもと「個別的教育支援計画」を作成している。				
1-①	4	私たちは、児童生徒の一人一人の障害の状態や発達段階を把握して「個別の指導計画」の目標設定を行い、個に応じた指導・支援を行っている。				
1-①	5	私たちは、児童生徒の力を適切に評価して「学習の記録」に記載している。				
3-③	6	私たちは、児童生徒のプライバシーや人権を尊重して教育を行っている。				
3-①	7	私たちは、児童生徒の校内での安全について、病気やけがへの適切な対応や未然防止の取組などを行っている。				
3-②	8	私たちは、変災時（自然災害や火災など）に備えた取組を行い、緊急時に的確に対応することができるよう、様々な訓練を実施したり対応マニュアルを整えたりしている。				
3-①②④	9	私たちは、教育環境を安全に整え、アクシデントを未然に防止しようとしている。				
3-④	10	私たちは児童生徒の心身の発達や食の安全を考慮し、適切に給食の提供や摂食指導を行っている。				
1-②	11	私たちは、児童生徒の将来の姿を念頭に、卒業後に必要な力を伸ばすための指導を行っている。				
1-③	12	私たちは、児童生徒が将来、社会生活を送る上で必要な情報を児童生徒や保護者に提供している。				
4-④	13	私たちは、通信やホームページ、フェイスブックなどで学校の情報を保護者や地域へ発信している。				
4-②	14	私たちは、地域の教育力（駅・公民館・商店・ボランティア団体等）を活用して、教育活動を魅力あるものにしようと努めている。				
4-⑥	15	私たちは、保護者や他の関係諸機関（医療・福祉・労働・地域社会等）と連携して児童生徒の支援を行っている。				
4-⑤	16	私たちは、研修や授業を地域の学校等に公開するとともに、地域の障害を持つ児童生徒の教育や進路について具体的な助言をし、特別支援教育についてのセンター的機能を果たしている。				
2-①②③	17	私たちは、特別支援教育の専門性向上のために、組織的なOJTを推進しながら校内研究や研修に取り組んでいる。				
1-②	18	私たちは、接続する学部間における体験授業や学部間の合同授業を実施している。				
1-②	19	私たちは、児童生徒の主体的な取組を伸長させるため、小学部検定や清掃検定をはじめとした技能検定に取り組んでいる。				
1-③ 2-①	20	私たちは、タブレットや情報機器を適切に有効に活用し、児童生徒の「やりたい」「わかった」「できた」を引き出す授業づくりに取り組んでいる。				
5	21	私たちは、空き時間を活用する、他の教員に協力要請を行うなどして、支え合っの業務遂行に努めている。				